

取引基本表（地域内表）

①取引基本表（地域内表）の構成

地域産業連関表の取引基本表の全体的な構成を地域内表で見ると、図1のような構造になっている。表頭には「中間需要」及び「最終需要」が、表側には「中間投入」及び「粗付加価値」の部門が並び、それらの交点に部門間の取引額が記載される。

このうち、「中間需要」と「中間投入」の間で取引される部分は「内生部門」と呼ばれ、各産業の間における原材料や燃料等の中間取引を表している。

また、「粗付加価値」は生産活動のために必要となった労働や資本、間接税などの要素費用を示している。具体的には、交際費などの「家計外消費支出」、賃金・俸給などの「雇用者所得」、利潤などの「営業余剰」、減価償却などの「資本減耗引当」、消費税などの「間接税（関税・輸入商品税を除く。）」、産業振興などの目的により政府から交付される「経常補助金」が該当する。

「最終需要」は最終的に財・サービスを需要する部門であり、主として財・サービスの消費及び投資額を示す。具体的には、家計、企業、政府などによる「消費支出」、建設物、機械、装置など固定資産への支出である「固定資本形成」、販売や出荷待ちの商品などの「在庫純増」、産業連関表の対象地域外への「移出」、国外への「輸出」が該当する。

なお、移入及び輸入は内生部門、最終需要部門で消費及び投資額として計上されていることから、マイナスで表記される。

図1 地域産業連関表（地域内表）の構成

		中間需要				最終需要					移入	輸入	生産額
		産業1	産業2	消費	投資	在庫	移出	輸出			
中間投入	産業1	内生部門 ↑ ↓ 原材料等と粗付加価値 ↓				最終需要部門 ← 販売先 →							
	産業2												
	・												
	・												
	・												
中間投入計													
粗付加価値	雇用者所得	粗付加価値											
	営業余剰												
	・												
生産額													

②投入及び産出の構造

産業連関表の取引基本表は、縦方向に、その産業部門の財・サービスの生産に用いられた原材料、燃料、労働力などへの支払いの内訳（費用構成）が並べられ、部門ごとの「投入」構造が示される。なお、分類される部門は原則として生産活動単位（同一事業所内で2つ以上の生産活動が行われている場合、活動毎に分類、いわゆるアクティビティベース）で表章する。

また、横方向には、その産業部門の財・サービスがどの需要部門でどれだけ用いられたのか、その販売先の内訳（販路構成）が並び、「産出」構造が示される。行部門の分類は原則として商品分類により表章する。

そして、産業連関表の特徴として、販売された産出額（横）の合計と生産された投入額の合計（縦）は一致し、それぞれ「生産額」として表章される。

③経済波及効果の分析

産業連関表とは、一定地域における一年間の経済取引をまとめた統計表であり、それ自体で「経済の見取り図」として活用することができる。しかし、さらに一歩進んで、産業間の相互依存関係等を計数化して数学的手法を用いることにより、ある経済活動によって消費、投資、輸出などに変化が生じた際に、各産業部門にどのような影響が及ぶかを明らかにする「産業連関分析」としても活用することができる。

詳細は、[「平成 23 年（2011 年）東京都産業連関表 報告書」P40～43](#)を参照されたい。